

2026年 5月12日

各 位

会社名 株式会社タカミヤ
 代表者名 代表取締役会長兼社長 高宮 一雅
 (コード番号2445 東証スタンダード市場)
 問合せ先 取締役兼常務執行役員
 経営戦略本部長 安田 秀樹
 (TEL. 06-6375-3918)

中期経営計画の数値目標の見直しに関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向等を踏まえ、2024年5月10日に公表、2025年5月27日に数値目標の見直しを行いました「中期経営計画2024-2026」につきまして、最終年度となる2027年3月期の数値目標を下記のとおり見直しを行いましたので、お知らせいたします。

記

1. 中期経営計画の数値目標の見直し

	2026年3月期	2027年3月期	
	実績	前回目標	修正目標
連結業績指標			
売上高	45,212百万円	52,700百万円	48,500百万円
営業利益	3,266百万円	3,000百万円	3,650百万円
財務指標			
営業利益率	7.2%	5.7%	7.5%
ROE	7.7%	6.0%	7.9%
ROIC	3.7%	3.0%	3.8%
プラットフォーム指標			
累計OPE-MANEアカウント数	156社	284社	236社
OPE-MANE 3ヵ年累計販売高	—	10,900百万円	8,320百万円

2. 修正の理由

当社は、2024年5月10日に2027年3月期を最終年度とする「中期経営計画2024-2026」を公表し、2025年5月27日に最終年度の数値目標見直しを実施いたしました。本計画では、「タカミヤプラットフォームとDXで新たな価値を創造し、業界初の足場プラットフォーム企業へ」を経営ビジョンに掲げ、①プラットフォームビジネスの確立・定着による収益基盤の確立、②DXと人的資本投資による成長基盤の確立、③海外事業における収益向上、④資本コストと株価を意識した経営の浸透の4項目を基本方針として掲げ、各種施策に取り組んでまいりました。

2026年3月期の実績については、レンタル需要の継続やOPE-MANEアカウント増の遅れはあったものの、プラットフォーム事業による高付加価値化や生産性向上により増収増益を達成しました。

「中期経営計画2024-2026」の最終年度となる2027年3月期においてもプラットフォーム事業による高付加価値化等により事業ポートフォリオの転換がリカーリング収益を中心に進むものと判断しており、売上高は当初の計画を下回りますが、売上総利益は増加する見込みです。また、物価上昇やサービス品質向上のための販管費増を見込みますが、これらは将来の価値提供を支える先行投資であり、生産性向上も着実に進展しております。結果として、一時的なコスト増加を吸収し、営業利益の増益を見込んでおります。

このような経営環境の変化および実績との乖離を踏まえ、当社は2027年3月期を最終年度とする「中期経営計画2024-2026」の数値目標について見直しを行うことといたしました。

一方で、経営ビジョン、基本方針、重点施策、株主還元方針については変更なく、引き続き中長期的な企業価値の向上に向けて施策を着実に実行してまいります。

詳細につきましては、2026年5月12日公表の「2026年3月決算説明資料」をご参照ください。

(注) 上記における目標数値は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により、これらの目標数値とは異なる可能性がございます。

以上